

風

二年
画数 9
筆順
フ、ウ、フ、カゼ・カゼ

成り立ち



帆かけぶねの「帆」のかたちをあらわした「凡」と「虫」とをくみあわせてつくった字です。

はるかぜがふきはじめますと、どこからともなく虫があらわれてきます。むかしの人びとは、それは「かぜ」が虫をはこんでくるのにながいがいとかんがえました。それで、ふねをはこぶ「帆」の「凡」と「虫」とをくみあわせて「かぜ」をあらわしました。

「かぜ」は、ほかのことばとじゆくごをつくるときには「かざ」となります。例 風車、風向き、風見鳥、風穴。
〔風は気象の要素なので、「風土（土地の気候）」などの用法がある。「風景」の風も「気象状況の加味された景色」という意味の語であらう。〕

▽風速。三十メートルという強風が、一日じゆうふきまくりました。
▽さむい北風のふく北国の風景は、たびにある人のころをいつそうさみしくさせます。

熟語例

- ▽北風（北のほうからふいてくる風）
- ▽風上（風のふいてくるほうこう）
- ▽風下（風のふいていくほうこう）
- ▽強風（強くふく風）
- ▽春風（春のあたたかなそよ風）
- ▽台風（なつからあきにかけてふく暴風。台湾ふきんにおこるといふことで中国でつけた名前です。）
- ▽暴風（あらあらしい風。木をおったり、いえのやねをとばすなど、あらすので「あらし」といいます。）
- ▽風速（風の速さ。一びようかんにすすむきよりであらわします。二八・五メートルいじようの風を暴風といいます。）
- ▽風景（景色のこと。「風光」「風物」などのことばもあります。）

分

二年
画数 4
筆順
フ、ン、フ、ン、フ、ン、フ、ン

成り立ち



「刀」で木をまっ二つに「切り分けたかたち」をあらわした字で、「分ける」といういみの字です。

「分かつ」は「分ける」とおなじいみのことばですがふるいことばです。おかしを二つに「分ける」と、おかしが二つに「分かれる」ことになりました。「〇〇を分ける」「〇〇が分かれる」というかんけいをしておきましよう。

フン・ブンは漢音で、ブは呉音です。むかし、ながさのたんに「寸」というたんいがあり、これを「十に分けたながさ」を「分」といいました。また、一時間を「六十に分けたもの」を「分」といいます。

使い方

▽ものをこまかくしていき、これ以上に分けると、そのものせいしつがうしなわれてしまうという、一番小さいじようたいになったものを「分子」といいます。

熟語例

- ▽分子（ものの一番小さなじようたいのもの。一つの団体を作っている人たちの一人一人のことをものにしたてて分子ということがあります。）
- ▽分割（割も分けるいみ。ものをいくつかに分けること。）
- ▽分裂（裂は裂ける（切れて分かれる）こと。一つのものがいくつかに分かれること。）
- ▽天分（天からその人に分けあたえられたせいしつや力生まれつきのさいのう）
- ▽分担（二つのことをいくつかに分けて、いく人かで負担（ひきうけてすること）すること。）
- ▽分配（ものを分けて配ること。）
- ▽一寸の虫にも五分の魂（一寸は今の三・三センチメートルの長さ。小さな弱いものでも、それなりの心があるのだから、ばかにしてはいけないというたとえ）